

創立140周年記念事業

○創立140周年記念式典・アニバーサリー交流会

来賓・本所役員議員などの関係者270名の出席のもと、記念式典を執り行い、これからの10年に向けた記念式典宣言の発表とともに、「京都・知恵アントレ大賞」の第1回表彰式並びに大賞受賞者によるプレゼンテーションを行った。また、会員企業などへの日頃の感謝を表す「アニバーサリー交流会」を併せて実施し、約1,150名が参加。VR体験などの最新ビジネス情報をはじめ、本所の経営支援事例展や飲食体験、「これからの京都について」を考えるステージなど、多彩なイベントも行った。



○特設サイトによる情報発信

本所ウェブサイト内に特設サイトを設置し、式典の映像をはじめ、記念誌に収録した座談会やインタビュー、経営支援の事例を動画などで紹介した。

座談会「明日をつくる 未来につなぐ」

経済、教育、アート、そして宗教、各界の視点から京都の過去を振り返り、未来につなぐ思いを語った。

塚本 能交 （本所 会頭）

堀場 厚 （本所 副会頭）

赤松 玉女 氏（京都市立芸術大学 学長）

松山 大耕 氏（臨済宗妙心寺退蔵院 副住職）



しなやかにともにいきる

京都商工会議所
創立140周年

VIVID
KYOTO

1882・2022

役員議員改選

○「VIVID KYOTO セカンドステージ」始動

11月2日に臨時議員総会を開催し、塚本能交会頭の2期目の再任並びに新役員体制を決定した。また、会頭の所信表明で、今期3年間を「VIVID KYOTO セカンドステージ」と位置づけ、3つの柱に基づき事業を推進することを発表した。



「VIVID KYOTO」を推進する3つの柱

新時代に対応した経営力向上

次世代「人財」づくり

京商の磁力を活かした新価値創出

推進分野【企業】 今日を生き抜くちからで、ともに明日をつくる

○知恵-1グランプリ

京都の特性や自社の強みを活かしながら、独自の知恵によって新たな顧客創造を後押しする「知恵-1グランプリ」を実施した。「チャレンジ部門」「イノベーション部門」「コラボレーション部門」各部門でビジネスプランを募集し、グランプリ3件、優秀賞7件の受賞プランを決定した。



○京都知恵産業フェア2023～Kyoto Style～

オール京都による販路開拓事業として、東京・京都の両ギフトショーに延べ129社で合同出展した。バイヤー、メディア、企業関係者など多くの来場者があり、3,521件の商談が繰り広げられた。



○環境変化に対応した経営支援活動の展開

コロナ禍の事業継続や経営課題の克服に向け、土業団体と連携を図りながら、事業復活支援金の事前確認、小規模事業者持続化補助金などの申請支援、資金繰りや経営計画の策定などの伴走支援を展開した（市内4つのビジネスサポートデスクで約38,000件の相談に対応）。また、インボイス制度の導入に対応したセミナーの開催やITツールの紹介なども行った。

○京都府事業承継・引継ぎ支援センター

事業承継の実務に精通した専門家が常駐し、相談件数385件、承継完了件数51件の円滑な事業のバトンタッチや後継者へのスムーズな承継をサポートした。また、地元金融機関と連携して、事業継続が難しい事業者と創業希望者とのマッチングなども行った。



推進分野【ひと】 幅広い視点から次世代の知恵を育む

○京都・知恵アントレ大賞

京都経済の未来を担うスタートアップの若手起業家を表彰する「京都・知恵アントレ大賞」を初めて実施した。82件の応募があり、大賞1件、優秀賞3件を選定。受賞者の製品やサービスの社会実装に向けて、活動資金の助成や京都企業との協業の後押しなどの集中支援を行った。



○京商イブニングピッチ

若手起業家やスタートアップなどが自社の製品やサービスを売り込む「京商イブニングピッチ」を計3回開催。事業会社や金融機関、ベンチャーキャピタルなど延べ317名が参加し、資金調達などの成果が生まれた。



○一般財団法人今日庵との連携・協力に関する協定締結

伝統文化の振興と会員企業への茶道の作法や、精神に触れる場を提供することを目的に、一般財団法人今日庵と連携・協力に関する協定を締結。千理事長による茶道を切り口にした連載記事を本所会報に掲載したほか、「次世代経営者育成講座」において講師を務めていただいた。



○第20・21回 京都・観光文化検定試験

京都の文化・歴史の継承と観光の振興，人材育成に寄与することを目的に実施している京都・観光文化検定試験を7月（3級のみ／京都）と12月（1～3級／京都・東京）の2回実施し，計7,299名の申込があった。また20回記念として，オリジナル御朱印帳付きコースを設け，受験をきっかけに京都巡りにいざなった。

推進分野【まち】 文化の多彩な展開で世界を魅了する京都ブランドへ

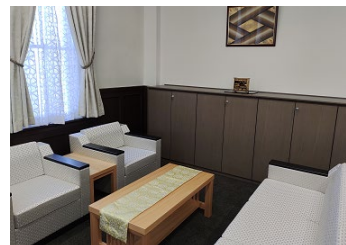
○「文化と産業の交流拠点」整備事業

文化庁移転を契機として，文化を活かした京都の産業振興と新たな価値創造に繋げるため，旧富岡鉄斎邸（元京都府議会議員公舎）において，拠点整備に向けた工事に着手した。



○文化庁の京都移転に係る支援

3月27日，文化庁が京都新庁舎で業務を開始した。本所は，文化庁の新庁舎への支援として，新行政棟への60インチマルチビジョン9面の設置や長官室への応接セットなどを寄贈した。これらの支援に対し，京都庁舎の整備にあたった京都府から感謝状を受領した。



○「2025年大阪・関西万博」セミナーin京都

本所をはじめ京都経済4団体で構成する「大阪・関西万博」京都支援協議会では，「大阪・関西万博」開催に向けた機運醸成の一環として，有識者や企業によるセミナーを開催。万博で実現したい「未来社会」へ向け，京都での新たな付加価値の創出について考える機会を提供した。



○ドバイ・アブダビ視察団の派遣

国際経済・交流委員会の主管で，視察団を派遣した。大阪・関西万博を見据え，ドバイ国際万博を活用した「エキスポ・シティ・ドバイ」などを視察し，開催後のまちづくりを考察した。

